

製品名: OTUD2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15537**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	YOD1
別名	YOD1; DUBA8; HIN7; OTUD2; Ubiquitin thioesterase OTU1; DUBA-8; HIV-1-induced protease 7; HIN-7; HsHIN7; OTU domain-containing protein 2
遺伝子 ID	55432.0
SwissProt ID	Q5VVQ6
免疫原	抗血清はヒト YOD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 116-165

背景

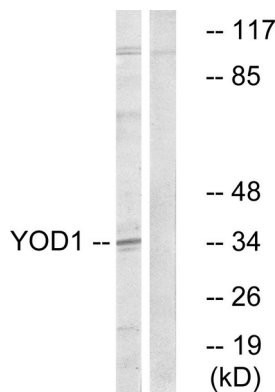
タンパク質のユビキチン化は、細胞周期の進行、転写活性化、シグナル伝達など、多くの細胞内プロセスを制御します。ユビキチン

結合酵素と脱ユビキチン化酵素が関与するこの動的なプロセスは、ユビキチンの付加と除去を行います。脱ユビキチン化酵素は、ユビキチン結合タンパク質基質からユビキチンを特異的に切断するシステインプロテアーゼです。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、卵巣腫瘍 (OTU) ドメインを特徴とする DUB サブファミリーに属します。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年1月],機能:タンパク質から共役ユビキチンを除去できる加水分解酵素であり、分解を防ぐことでタンパク質代謝レベルで重要な調節的役割を果たす可能性がある。、配列注意:フレームの選択が間違っている。、類似性:C2H2型ジンクフィンガーを1つ含む。、類似性:OTUドメインを1つ含む。、

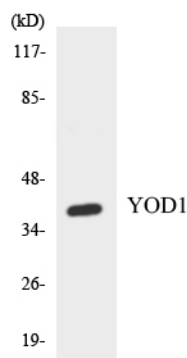
研究分野

リモネンとピネンの分解;不飽和脂肪酸の生合成;

画像データ



YOD1抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



YOD1抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



OTUD2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

